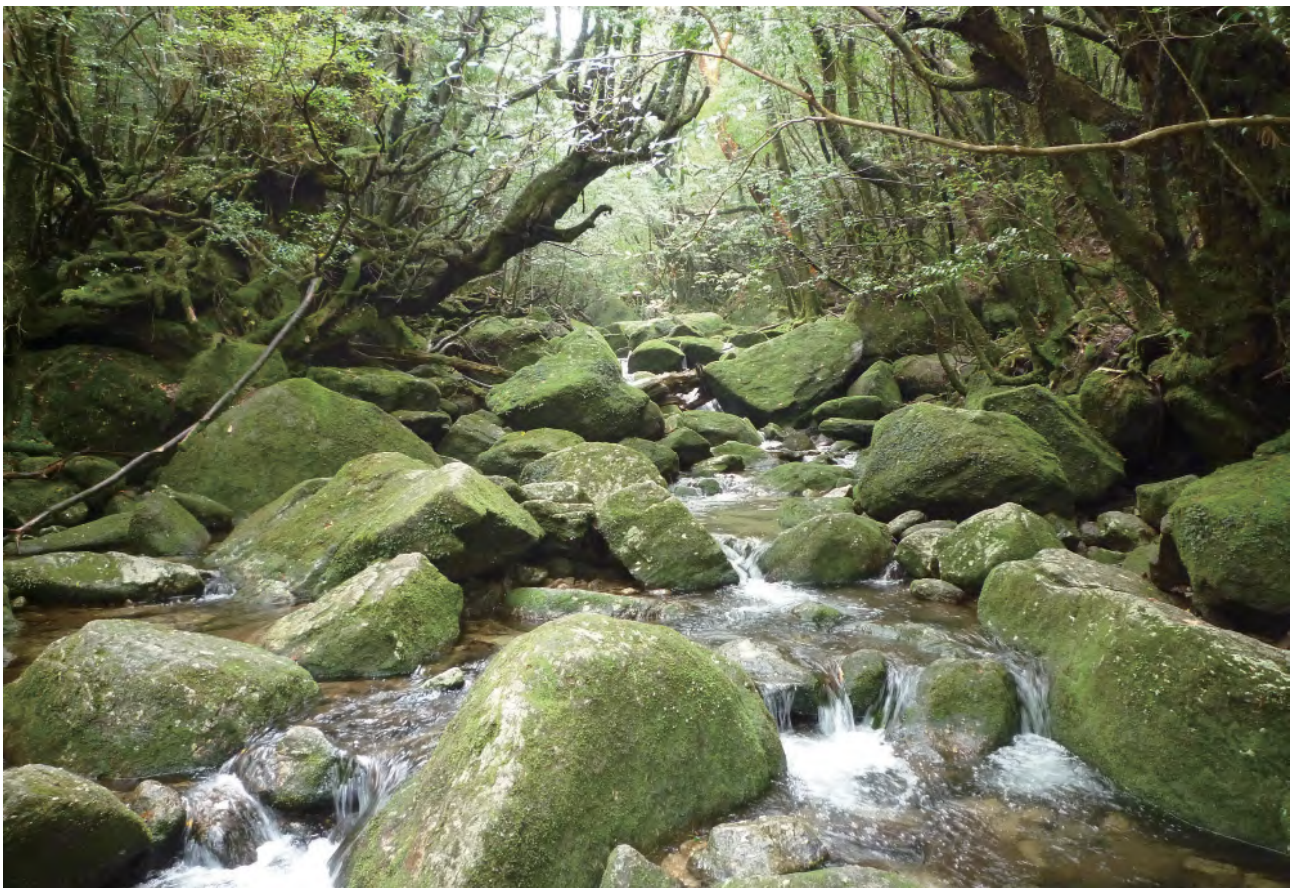

第５章
基本理念

基本理念：「共生」と「循環」

この戦略では，「共生」と「循環」を基本理念とします。これは，1992（平成４）年に策定した屋久島環境文化村構想においても基本原理（理念）としたもので，人と自然との関わり方を考える上で，普遍的な理念です。この戦略に基づく個々の施策や取組は，常にこの理念に基づいて実施します。

共生とは

「人間はすべての生き物と共に生き，共存している」ことを言います。自然を人間のための資源であると捉え，自然を支配しようとするのではなく，人間と生き物は対等な関係にあり，むしろ人間は自然の中で生かされているとする考え方です。これは，巨木や山，川，滝，土地にも魂が宿るという日本の伝統的自然観とも通じるものです。

循環とは

人間を含むすべての生き物のつながりを象徴する言葉です。すべての生きとし生けるものは，生き代わり死に代わりして生命の循環を続けていきます。他の生き物の命が自分の血となり肉となりますが，自分自身もいずれは土に返り，命は他の生き物に引き継がれていきます。このように物質だけでなく命も循環しているのだという考え方です。

「共生と循環」の理念が示す「人間は他の生物と共に生きていく存在であり，循環を繰り返す生命の環の一つでしかない」という認識を持つことにより，現在を生きる我々人間は自己の利益を求めすぎるあまり，他の生物や将来世代に負担を押しつけることになってしまってはいけないという意識を持つことができます。つまり，「共生」と「循環」の理念とは，人間は他の生物や将来の世代と公平に，資源を分けあって節度を持って生きるべきであるという価値観・倫理観を呈示するものです。

（参考）求められる「共生と循環」の原理
（屋久島環境文化懇談会報告（1992（平成４）年９月）より）

共生と循環の原理の再生へ

人間も自然の一部であって，自然の中の他の多くの生き物と共生することでしか生きられず，人間だけが果てしない成長や拡大を続けると言うことはあり得ないことを確認すること，また，個人の存在や現在という時に絶対の重きを置くのではなく，長い時間の中で考え，今ある自己の人生は無限の循環を続ける人間という生命の一つの経過点にしか過ぎないとないとみる，そうした視点が必要である。